

余暇施設開発の実際 25 . 属性からみた被験者のタイポロジー

20代若者の余暇活動 余暇活動意識
アンケート属性 タイポロジー

正会員 ○大野紘資*2 西口真也*3
三上訓顯*1

1 はじめに

前報^(注1)に引き続き本報では、20代若者の余暇の実態を探り、今後の余暇施設計画に向けた方法論の形成を目的とし、前報で実施した余暇活動意識調査の結果から、被験者の設問(表1)に対する回答(144サンプル)に基づき、6アイテム28カテゴリーのデータベースを用いて類型化を行った。尚、抽出方法には、多変量解析を用いた。

2 類型化軸と各軸の意味

はじめに数量化Ⅲ類を用いて類型化を行う際の類型化軸を抽出した。抽出に際し固有値・寄与率を算出したのが表2である。第1軸:10.50%, 第2軸:8.98%, 第3軸:8.29%, 第4軸:6.78%, 第5軸:6.42%となり、累積寄与率が40.97%となる第5軸までを採用した。次に各軸の意味をカテゴリースコア(図1)で考察を行った。

第1軸について +側に4.1)余暇費用:2千円以下、7.2)同伴者:親族、7.1)同伴者:自身が出現し、少額で活動範囲が小さくインドア傾向がみられる。また-側に6.6)場所:その他、6.5)場所:隣接圏域、7.3)同伴者:友人、5.6)時間:1日以上が出現し、非日常型レジャーが伺える。+側と-側が相反することから、レジャー環境を判別する軸と解釈し「レジャー環境判別軸」と呼ぶ。

第2軸について +側に4.3)費用:4~6千円、6.2)場所:近隣地域、4.2)費用:2~4千円が出現し、-側に5.6)時間:1日以上、6.6)場所:その他、4.6)費用:1万

円以上が出現した。+側は手軽に楽しむ日常的なレジャーであるのに対し、-側は余暇時間が1日以上且つ場所が不特定と非日常型レジャーが伺える。日常型・非日常型のレジャーを判別する軸と判断し「レジャー規模判別軸」と呼んでおく。

第3軸について +側に8.2)性別:女性が登場し、続いて7.4)同伴者:恋人、5.1)時間:1~2時間、-側に7.2)同伴者:親族、5.5)時間:12~24時間、7.5)同伴者:その他と続く。デートなど、短時間の日常レジャーが伺えることから「日常型レジャー軸」と呼ぶ。

第4軸について +側に6.6)場所:その他、5.6)時間:1日以上、3.2)スキー等の関心度:将来行ないたい、6.2)場所:近隣地域、4.6)費用:1万円以上、-側に7.5)同伴者:その他、7.4)同伴者:恋人が登場した。+側に

表1 余暇活動意識調査の設問

ITEM	CATEGORY	ITEM	CATEGORY
スキー	3.1 既に行っている	余暇場所	6.1 自宅(自宅を含む)
スキーボードの関心度	3.2 将来行ないたい		6.2 近隣地域
	3.3 特に関心はない		6.3 隣接市街地
余暇費用(一回当り)	4.1 0~2千円	6.4 県内	
	4.2 2~4千円	6.5 隣接圏域	
	4.3 4~6千円	6.6 その他	
	4.4 6千~8千円	余暇同伴者	7.1 自身
	4.5 8千~1万円		7.2 親族等
	4.6 1万円以上		7.3 友人
5.1 1~2時間	7.4 恋人		
余暇時間(一回当り)	5.2 2~4時間	7.5 その他	
	5.3 4~6時間	性別	8.1 男性
	5.4 6~12時間		8.2 女性
	5.5 12~24時間		
	5.6 1日以上		

表2 固有値・寄与率

	固有値	寄与率	累積寄与率	相関係数
1軸	0.10497	10.50	10.50	0.32398
2軸	0.08979	8.98	19.48	0.29865
3軸	0.08288	8.29	27.76	0.28785
4軸	0.06783	6.78	34.54	0.26044
5軸	0.06424	6.42	40.97	0.25348

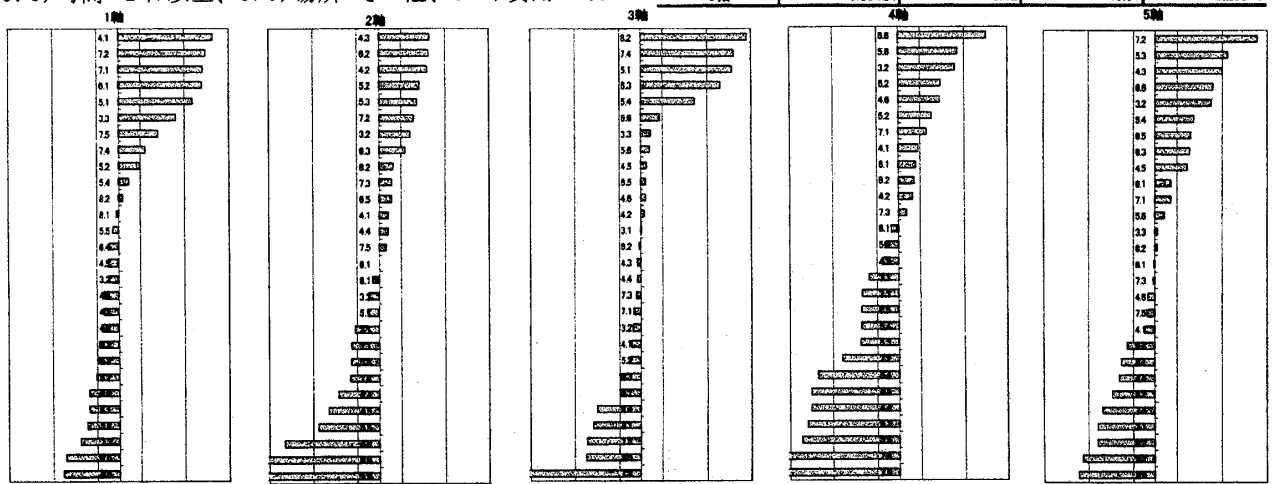
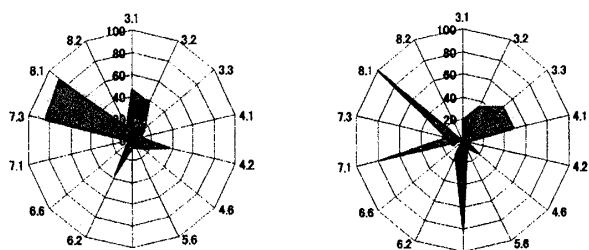


図1 各類型軸カテゴリースコア(各No.はアイテム・カテゴリーのNo.)

A Practical Site of Development on the Leisure Facilities Part 25.
Typology of the subject from an attribute.

ONO Hiroshi et al all



タイプ1 潜在層型 タイプ2 男性インドア型
 図3 タイプ別のアイテム・カテゴリー構成比
 (最大値を含むカテゴリーのみを示す)

において非日常型レジャーへの参加希望が高いことが伺えることから「非日常型レジャー軸」と呼ぶ。

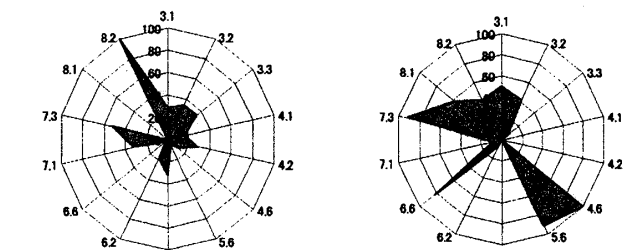
第5軸について +側に7.2) 同伴者:親族、5.3) 時間:4~6時間、4.3) 費用:4~6千円、6.6) 場所:その他、-側に5.5) 時間:12~24時間、5.2) 時間:2~4時間、6.2) 場所:近隣地域が出現した。+側において、7.2) 同伴者が親族、余暇時間4~6時間であり。6.6) 場所:その他と特定しないことから、休日の日帰りレジャーなどが背景として伺えることから、この軸を「日帰りレジャー軸」と呼んでおく。

3 20代若者の余暇活動の類型化

前章で抽出した5類型化軸のサンプルスコアを用いてクラスター分析を行い、余暇活動の類型化を行った。図2のRescale Distance値20で足りきりを行うと4タイプが抽出された。抽出された各タイプのカテゴリーデータの構成比をみたのが図3である。これらを用いて各タイプの特性を述べる。尚、各タイプの出現数構成比は図4に示す。

タイプ1 タイプ1は3.1) スキー・スノーボードの関心度:既に行なっているは45.95%とあり、3.2) 将来行ないたい:37.84%の希望参加率を含めると83.79%と高く出現した。費用においては4.2) 2~4千円:36.49%、4.3) 4~6千円:21.62%と2~6千円に集中している。また6.2) 場所:近隣地域が36.49%に対し、6.1) 場所:自宅等が8.11%と低く出現した。7.3) 同伴者:友人が83.78%と高値である。費用を抑えた余暇時間の過ごし方が背景に伺え、手持ち金額によって余暇活動の可変性も考えられることから、潜在需要のある層と判断し、このタイプを「潜在層型」と呼ぶ。

タイプ2 タイプ2は、8.1) 性別:男性が100%と出現し、4.1) 費用:2千円以下が48.15%、6.1) 場所:自宅等が81.48%、7.1) 同伴者:自身77.78%といずれも高く出現した。出費を抑え、余暇を自宅で過ごすインドア傾向が顕著に現れている。また、3.3) スキー等の関心度:関心ないが48.15%と高く、スキー等に対し、関心が低いのも特徴である。以上から、このタイプを「男性インドア型」と呼ぶ。



タイプ3 女性インドア型 タイプ4 レジャー志向型

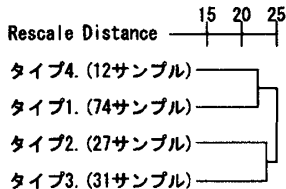


図2 デンドログラム

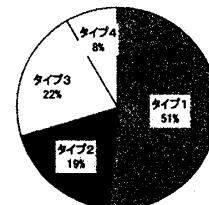


図4 各タイプの出現数構成比

タイプ3 タイプ3は、8.2) 性別:女性が100%と出現し、7.3) 同伴者:友人51.61%と高い。活動場所は6.1) 場所:自宅等32.26%、6.2) 場所:近隣地域19.35%と続き、活動範囲が小さい。女性被験者45サンプルの内、68.8%の31サンプルがこのタイプに集中しており、このタイプを「女性インドア型」と呼ぶ。

タイプ4 タイプ4は3.1) スキー・スノーボードの関心度:既に行なっているにおいて50.00%とあり、3.2) 将来行ないたい41.67%と共に高く出現した。また4.6) 費用:1万円以上が100%、5.6) 時間:1日以上が91.67%、6.6) 場所:その他83.33%、7.3) 同伴者:友人91.67%となった。明らかに他のタイプとは異なり、顕著である。レジャーに対する投資金額が多く、そのほとんどが余暇時間を一日以上としていることからレジャーに対する志向性が伺え、このタイプを「レジャー志向型」と呼ぶ。

4 まとめ

以上の考察により特徴のある「潜在層型」「男性インドア型」「女性インドア型」「レジャー志向型」の4タイプを抽出した。

1. タイプ1 潜在層型は今回調査において51%と最も多く出現した。
2. タイプ2, 3のインドア系では、余暇同伴者の項目において、男性型と女性型とは顕著な違いが見られた。
3. スキー等の関心度において、参加率、参加希望率の構成比合計値がタイプ1潜在層型83.79%、タイプ4レジャー志向型91.67%といずれも高値で出現した。この層の動向が本研究テーマであるスキー場の運営に、大きく影響されるものと判断した。今後、方法論を構築していく際の要因を探る上で注目したい。

注 注1. 本報No24. で得たデータを使用

*1 名古屋市立大学大学院 教授・工博(デザイン学)
 *2 名古屋市立大学 研究員 葦工修
 *3 名古屋市立大学 研究員 経堂修

Nagoya City University Graduate School, Prof. Nagoya City University Graduate School, Ph.D.
 Nagoya City University, M.Eng.
 Nagoya City University, M.Eng.